瑞光山禅林寺　〒510-1225　三重郡菰野町下村 191 番地℡・Fax059 - 393 - 2040　メール zenrinji@cty-net.ne.jp

でんでら通信 第二百十五号 令和五年十一月

坐禅会

十一月二十九日(水)十時に坐禅会を開催します。みなさんのご参加をお待ちしております。

竹に上下の節有り

秋の季語に「竹の春」という言葉があるそうです。

おのが葉に 月おぼろなり 竹の春　蕪村

竹は秋にもっとも翠々（みどりみどり）として勢いを増し、自らの葉で月の姿がおぼろげにしか見えなくなっている情景を詠んだ与謝蕪村の句です。

竹にまつわる禅語としておそらくもっとも知られているのは、「竹有上下節」（竹に上下の節あり）でしょう。

この句には対句があります。

「松無古今色　竹有上下節」（松に古今の色なし竹に上下の節有り）

この句は「松」の平等、「竹」の区別を表していると解釈されています。

松がずっと緑という不変は「平等」を表しているといいますが、実際は、松の葉はずっと同じ葉ではなく、古葉は抜け落ち、若葉が新しく芽吹いて来ています。不変に見えるけど実は変化、新陳代謝があります。季節の移り変わりの中でもその緑を保ち、古松が年月を経ても緑は変ることの無い一色平等なのです。

また竹は、上下の節があるように、人間にも区別があって、どんなに仲が良くてもそれぞれの立場や考え方があり、礼儀や節度を守らなければ社会の調和は保たれないということです。

人間はみな平等だ、と主張しても男と女、老人と若者、貧しい者と富める者、上司と部下の待遇、とそれぞれ区別がされます。

福沢諭吉は「学問のすすめ」の冒頭に「天は人の上に人を造らず。」といっております。この言葉だけをとらえると福沢諭吉は平等主義者のようですが、実は学問のすすめを読み解くと、「勉強する者は金持ちとなり、勉強しない者は貧乏人となる」

これが資本主義の大前提となる原則であり、資本主義の下にさらされる以上、「勉強もしないのに食っていけるなんて思うなよ」と説いているそうです。

当時は江戸時代ですから身分制度がありました。生まれた時からある程度将来が決まっているような部分がありました。だから、自分の身分に関係ないことなんて全く勉強しない、そういう人が多かったようです。

しかし時代は幕末、明治維新と進み、日本は資本主義国家となりました。ここから時代に取り残された人々の中には、階級制度から抜け出せずに、自分で努力、勉強もせず、困窮に陥れば、自分の非を認めるのではなく、富める人を怨む者もいたようです。

地球上の命はみな平等でありながら、先進国に生まれた者は裕福であり、後進国に生まれた者は食べる物に困り、争いに巻き込まれる。場所により差別は歴然とあり、差別は歴然とありながら平等という、真理があるのです。

今もウクライナやパレスチナでは争いに困窮した人々が、またアフリカ等の諸外国には飢餓に苦しむ人々がみえます。『松に古今の色無し』で平等一色の面を、『竹に上下の節有り』で差別歴然の面を感じ取り、今、私たち日本にいるものは、その豊かさ、有難さに感謝しなければなりません。

早く国際紛争が解決することを祈らずにはいられません。

お知らせ

お寺に来られた方はご存じと思われますが、現在本堂西側の駐車場の拡幅工事を行っています。以前は山になっている空地でした。その現状のままでもよかったのですが、山の法面にキツネかタヌキかわかりませんが、横穴の巣を幾つも作って土が掘り起こされて困っていました。そこで今回の工事へと至りました。今後駐車場として整備し、参詣者の方々に利用していただきやすいようにします。

また、本堂内陣の戸帳（とちょう）と打敷（うちしき）を現住職、副住職の母の菩提の弔いとして新調しました。お参りの際にご覧ください。

◎戸帳とは仏様（仏像）の前にある布のことです。仏様の世界（浄土）と私たち（俗世）との間に布を垂らすことで、自ずと仏様に敬意を表しています。

◎打敷は仏壇を飾る荘厳具で、今回正面の須弥壇（しゅみだん）の前に飾りました